

## 平成 21 年 2 月の地震活動及び火山活動について

### [地震活動]

震度 5 弱以上を観測した地震及び津波を観測した地震はありませんでした。

全国で震度 1 以上を観測した地震の回数は 110 回、日本及びその周辺における M4.0 以上の地震の回数は 67 回でした。

国土地理院の GPS 観測結果では、全国の地殻変動について特に目立った変動は見られません。

震度 3 以上を観測するなどの主な地震活動の概況は別紙 1 のとおりです。また、世界の主な地震は別紙 2 のとおりです。

### [火山活動]

浅間山では、傾斜変動と火山性地震が増加したことなどから、2月1日に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを 2 (火口周辺規制) から 3 (入山規制) に引き上げました。2日 01 時 51 分頃に小規模な噴火が発生し、この噴火に伴い関東南部でも降灰が確認されました。その後、3日に火口周辺警報 (火口周辺規制、噴火警戒レベル 3 を継続) を発表し、警報事項を切替えました。9日から17日にかけてごく小規模な噴火が発生するなど、引き続き火山活動の高まった状態が続いています。

桜島では、2月1日から2日にかけて昭和火口で爆発的噴火が繰り返し発生したことなどから、噴火活動は活発化する傾向にあると判断し、2日に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを 2 (火口周辺規制) から 3 (入山規制) に引き上げました。その後、19日に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを 3 から 2 に引き下げました。3月1日から2日にかけて昭和火口で爆発的噴火が 3 回発生したことなどから噴火活動は活発化する傾向にあると判断し、3月2日に火口周辺警報を発表し噴火警戒レベルを 2 (火口周辺規制) から 3 (入山規制) に引き上げました。

口永良部島では、GPS による地殻変動観測で、新岳火口浅部の膨張を示す変化が続くなど、依然として火山活動が高まった状態となっており、火口周辺警報 (噴火警戒レベル 3、入山規制) が継続しています。

雌阿寒岳では、ポンマチネシリ火口の噴煙はやや多い状態で推移しました。雌阿寒岳では、火口周辺警報 (噴火警戒レベル 2、火口周辺規制) が継続しています。

三宅島では、多量の火山ガスの放出が続いており、火口周辺警報 (噴火警戒レベル 2、火口周辺規制) が継続しています。

諏訪之瀬島では、小規模な噴火が時々発生しました。火口周辺警報 (噴火警戒レベル 2、火口周辺規制) が継続しています。

その他の火山の活動状況に特段の変化はありません。

日本の主な火山活動の概況は別紙 3 のとおりです。また、世界の主な火山活動は別紙 4 のとおりです。

注 1 : 噴火警戒レベルには、レベル毎に防災機関等の行動がキーワードとして示されており、導入にあたっては、噴火警戒レベルの活用が地域防災計画等に定められることが条件となります。

注 2 : 国土地理院の GPS による地殻変動観測については、国土地理院ホームページの記者発表資料「平成 21 年 1 月～平成 21 年 2 月の地殻変動について」を参照願います。

<http://www.gsi.go.jp/WNEW/PRESS-RELEASE/2009-goudou0306.html>

注 3 : 気象庁の地震活動資料には、防災科学技術研究所や大学等関係機関のデータも使われています。

注 4 : 地震活動及び火山活動の詳細については、地震・火山月報(防災編)平成 21 年 2 月号 (平成 21 年 3 月末頃に刊行及び気象庁ホームページ掲載予定) をご覧下さい。

注 5 : 平成 21 年 3 月の地震活動及び火山活動については、平成 21 年 4 月 7 日に発表の予定です。